

### 3. 回答結果と分析

#### (1) まとめと分析

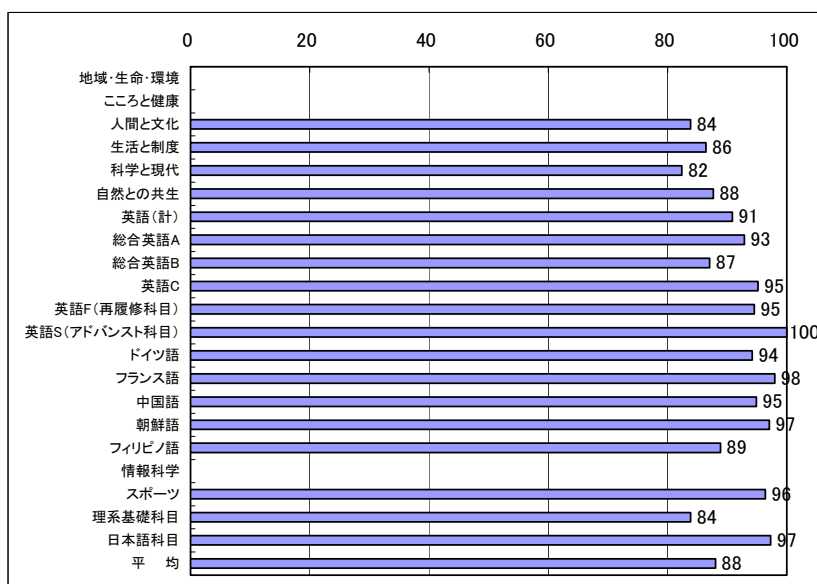
(2) 以下に示される平成19年度後学期の集計結果について、設問ごとの分析を行った。各設問に対して肯定的な評価を行った学生の割合を算出し、科目別平均と全科目平均を示した。これらの数値から全体的な傾向及び各科目の特徴を把握し、今後の対策について提案を行った。尚、「英語」に関しては(計)の数値を分析の対象としている。

#### 1) 「授業の内容に関する質問」に対する学生の自己評価

まず「目的・目標の理解」であるが、全科目平均で88%の学生が肯定的評価を行っており、また、すべての科目で80%以上の数値を得ている。概ね学生は授業の目的・目標を理解できていると判断できる。「フランス語」「朝鮮語」「日本語科目」の語学系科目や「スポーツ」が特に高い肯定的評価を得ている。

表1 設問①1-1目的・目標の理解  
(全回答数に対するA、B評価の割合(%))

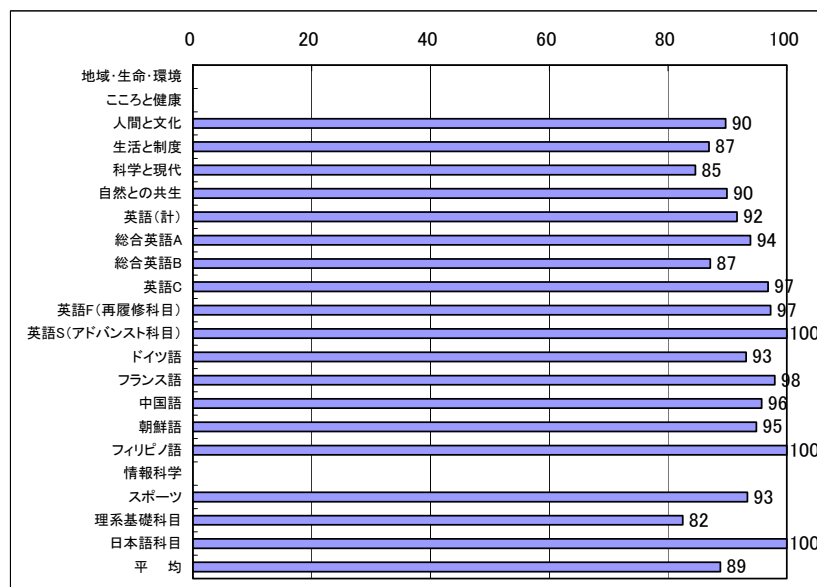
	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	85		83	
ところと健康	76		83	
人間と文化	87	82	87	84
生活と制度	91	81	79	86
科学と現代	79	78	82	82
自然との共生	77	89	91	88
英語(計)	89	93	89	91
総合英語A			92	93
総合英語B			84	87
英語C			92	95
英語F(再履修科目)			91	95
英語S(アドバンス科目)			96	100
ドイツ語	73	90	78	94
フランス語	92	98	91	98
中国語	87	92	91	95
朝鮮語	89	88	94	97
フィリピン語	100	83	100	89
情報科学	81	100	76	
スポーツ	96	94	95	96
理系基礎科目	76	82	78	84
日本語科目	100	100	100	97
平均	83	86	85	88



次に「進捗・時間配分」の適切さであるが、全科目平均で89%の学生から肯定的評価を得た。すべての科目で80%を上回る高い数値を得ていて、「目的・目標の理解」同様に語学系科目と「スポーツ」の肯定的評価が高い。

表2 設問②1-2進捗・時間配分  
(全回答数に対するA、B評価の割合(%))

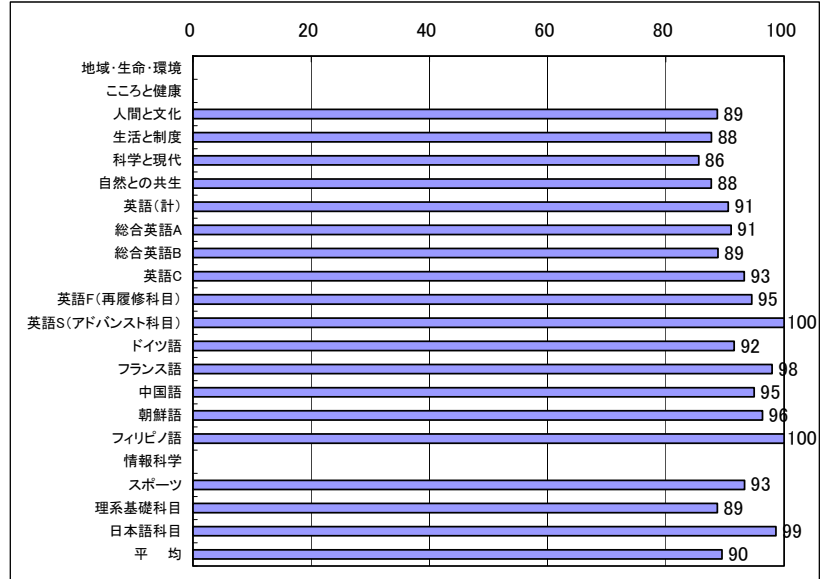
	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	74		83	
ところと健康	82		88	
人間と文化	86	88	88	90
生活と制度	92	85	85	87
科学と現代	84	83	87	85
自然との共生	81	85	89	90
英語(計)	91	95	91	92
総合英語A			95	94
総合英語B			86	87
英語C			92	97
英語F(再履修科目)			96	97
英語S(アドバンス科目)			100	100
ドイツ語	79	88	78	93
フランス語	86	95	96	98
中国語	84	91	91	96
朝鮮語	91	90	95	95
フィリピン語	63	83	89	100
情報科学	74	100	70	
スポーツ	93	92	91	93
理系基礎科目	79	81	80	82
日本語科目	94	100	97	100
平均	83	87	86	89



「シラバスどおりの授業」については、一番低い値でも「科学と現代」の86%、全科目平均で90%を得ていて、高い肯定的評価を得た。多くの学生が「シラバスにそって授業が実践されている」と感じていると言える。シラバスに書かれている内容は教員と学生との間の契約事項としての役割をもっている。今後もシラバスにそった授業を行っていくことが求められる。また、当初のシラバスとは異なる授業を行う場合にも、シラバスを変更した上で、学生に変更点や変更理由をきちんと説明することが重要である。

表3 設問③1-3 シラバスどおりの授業  
(全回答数に対するA、B評価の割合(%))

	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	88		84	
こころと健康	88		89	
人間と文化	91	87	90	89
生活と制度	92	86	85	88
科学と現代	84	84	87	86
自然との共生	86	86	90	88
英語(計)	90	94	90	91
総合英語A			92	91
総合英語B			88	89
英語C			92	93
英語F(再履修科目)			91	95
英語S(アドバンスト科目)			94	100
ドイツ語	77	90	79	92
フランス語	94	99	98	98
中国語	84	92	95	95
朝鮮語	94	84	94	96
フィリピン語	63	100	100	100
情報科学	86	100	87	
スポーツ	89	90	90	93
理系基礎科目	85	88	87	89
日本語科目	97	96	98	99
平均	87	88	88	90

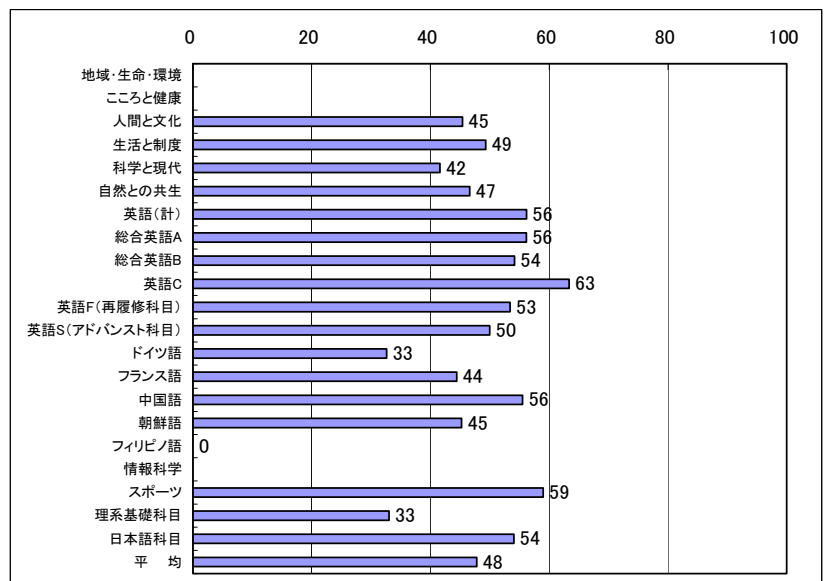


「レベル」については、選択肢が5択(他は4択)であるため、3番目の選択肢『ちょうどよい』の値を示した。全科目平均で48%しか肯定的な回答を得られておらず、半数以上の学生がレベルの適切さを感じていないということになる。数値の低い「ドイツ語」「理系基礎科目」については、その意味を解釈する、より深いデータ収集を行い、レベルの再設定などを検討すべきである。この設問の評価が低くなる要因は、学生の学習履歴の多様化、大学での学習技術の未習得、学習ニーズ分析不足など複合的である。授業の検討のみならず、プレイスメントテストの実施による正確な学力把握や、未習・補習、学習相談窓口等の個別対応型学習支援サービスの提供もあわせて考える必要がある。また、前学期と比較して「朝鮮語」が16%、「日本語科目」が17%、肯定的評価が下がっている。この差が生じる要因について部会で検討する必要があるのではないかと。

尚、「フィリピン語」の評価が0%なのは、開講科目数や受講生数が少ないことが関係していると思われる。

表4 設問④1-4 レベル  
(全回答数に対するC評価の割合(%))

	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	56		48	
こころと健康	43		47	
人間と文化	49	48	52	45
生活と制度	54	46	47	49
科学と現代	41	39	45	42
自然との共生	50	52	51	47
英語(計)	51	53	52	56
総合英語A			57	56
総合英語B			48	54
英語C			50	63
英語F(再履修科目)			48	53
英語S(アドバンスト科目)			63	50
ドイツ語	33	37	31	33
フランス語	34	37	31	44
中国語	49	46	53	56
朝鮮語	56	44	61	45
フィリピン語	0	0	0	0
情報科学	39	0	24	
スポーツ	60	55	54	59
理系基礎科目	35	31	35	33
日本語科目	54	64	71	54
平均	46	45	45	48

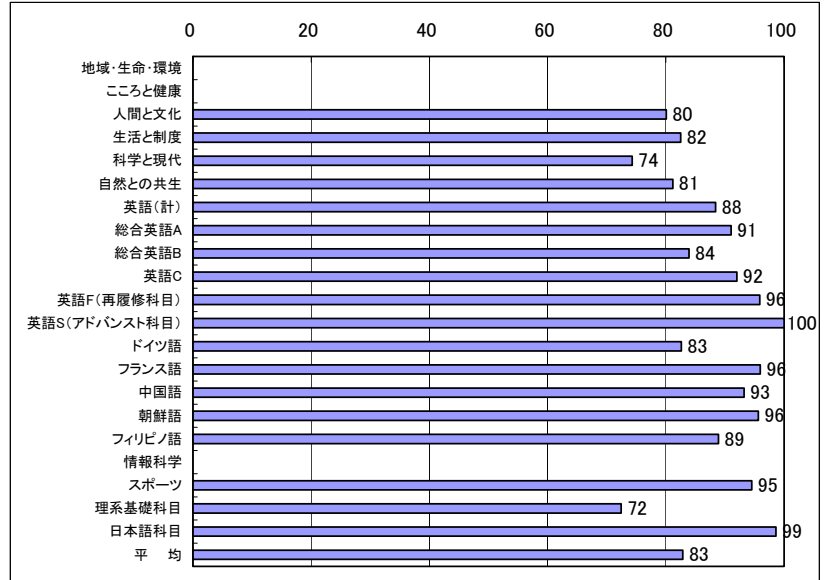


## 2) 「授業担当者の授業方法に関する質問」に対する学生の評価

まず「わかりやすさ」についてであるが、全科目平均では83%の肯定的評価を得ている。各科目を比較すると「科学と現代」「理系基礎科目」においてやや数値が低くなっている。わかりやすさに影響を及ぼす要因は大きく2つあり、授業内容そのものの難易度が高い場合と、授業における教授方法（テクニック等）に起因する場合が考えられる。「理系基礎科目」は「レベル」についても、低い評価を受けており、教授方法とあわせて見直しをする必要がある。また、「ドイツ語」は、前学期に比べてかなり数値が上昇している。その理由が分かれば更なる「わかりやすさ」の評価アップにつながる可能性もある。

表5 設問⑤2-1 わかりやすさ  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

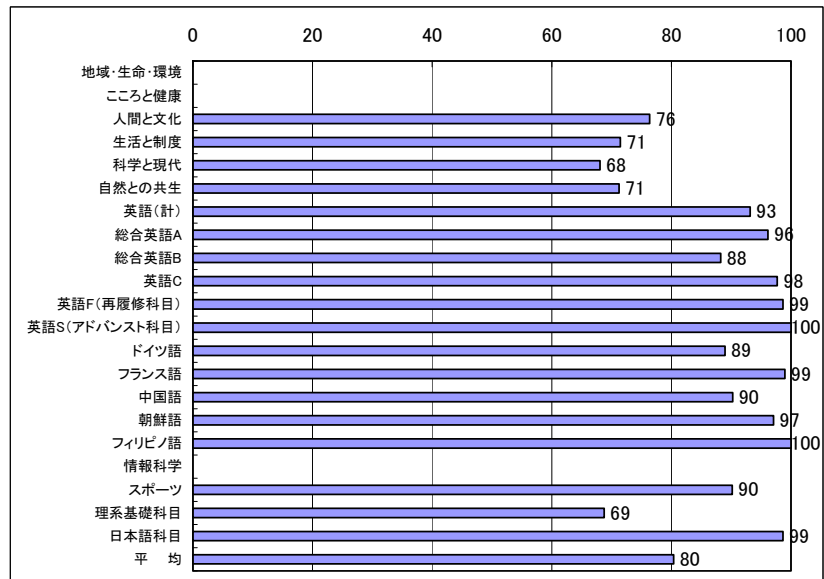
	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	80		75	
ところと健康	70		77	
人間と文化	82	82	86	80
生活と制度	91	77	76	82
科学と現代	77	72	78	74
自然との共生	71	82	85	81
英語(計)	86	90	86	88
総合英語A			92	91
総合英語B			78	84
英語C			88	92
英語F(再履修科目)			87	96
英語S(アドバンス科目)			98	100
ドイツ語	61	82	58	83
フランス語	80	95	87	96
中国語	80	84	89	93
朝鮮語	88	85	96	96
フィリピン語	88	83	100	89
情報科学	65	100	58	
スポーツ	92	94	90	95
理系基礎科目	65	69	67	72
日本語科目	97	100	98	99
平均	76	81	78	83



「コミュニケーション」は、教員と学生の間でコミュニケーションが図られているかを確認する指標であり、全科目平均では80%の肯定的評価を得た。科目別の結果を見ると「科学と現代」「理系基礎科目」の数値が低くなっている。これらは、従来主に知識提供型の授業スタイルで行われてきた科目である。しかしながら、学生のコミュニケーション能力の向上が社会的に要請されている現状をふまえ、これらの科目においても、積極的に教員と学生の間でコミュニケーションを図っていくことが求められている。学生とのコミュニケーションの手法をFD等で学習する必要があるだろう。

表6 設問⑥2-2 コミュニケーション  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

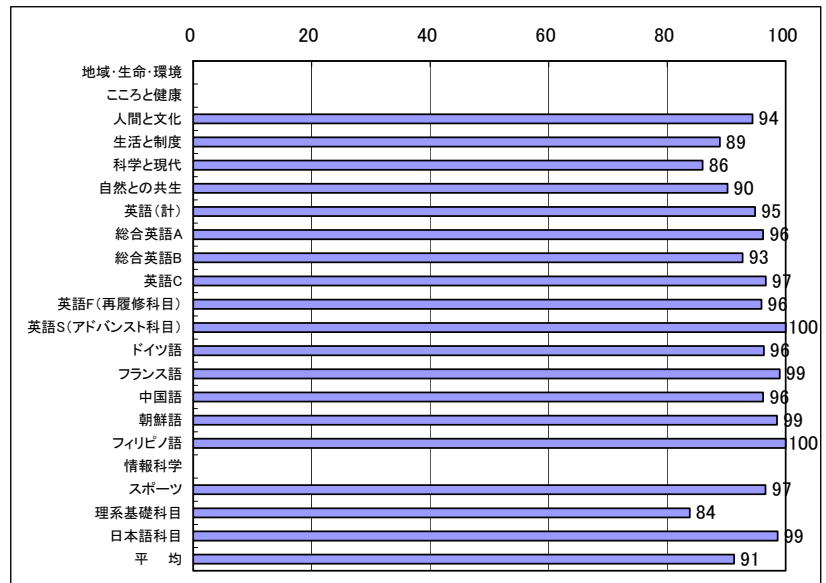
	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	67		66	
ところと健康	53		62	
人間と文化	80	79	81	76
生活と制度	69	67	64	71
科学と現代	62	66	70	68
自然との共生	68	77	77	71
英語(計)	94	96	92	93
総合英語A			96	96
総合英語B			85	88
英語C			94	98
英語F(再履修科目)			94	99
英語S(アドバンス科目)			100	100
ドイツ語	79	92	73	89
フランス語	88	95	91	99
中国語	77	86	86	90
朝鮮語	91	88	92	97
フィリピン語	100	100	89	100
情報科学	57	100	57	
スポーツ	85	87	86	90
理系基礎科目	68	68	67	69
日本語科目	94	98	100	99
平均	74	79	76	80



「教員の意欲・熱意」については、全科目平均の肯定的評価が91%であり、多くの科目で90%以上の高い数値を得ている。教員の「熱意」は学生に伝わってこそ教育効果につながるものであり、この評価がさらに伸びるよう期待したい。

表7 設問⑦2-3 教員の意欲・熱意  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	89		89	
ところと健康	83		86	
人間と文化	96	93	94	94
生活と制度	92	88	87	89
科学と現代	86	85	86	86
自然との共生	86	93	93	90
英語(計)	96	97	95	95
総合英語A			98	96
総合英語B			92	93
英語C			96	97
英語F(再履修科目)			95	96
英語S(アドバンスト科目)			98	100
ドイツ語	84	92	80	96
フランス語	91	98	98	99
中国語	90	93	96	96
朝鮮語	93	91	95	99
フィリピン語	100	100	100	100
情報科学	72	100	70	
スポーツ	96	95	95	97
理系基礎科目	79	82	80	84
日本語科目	100	100	100	99
平均	87	90	88	91

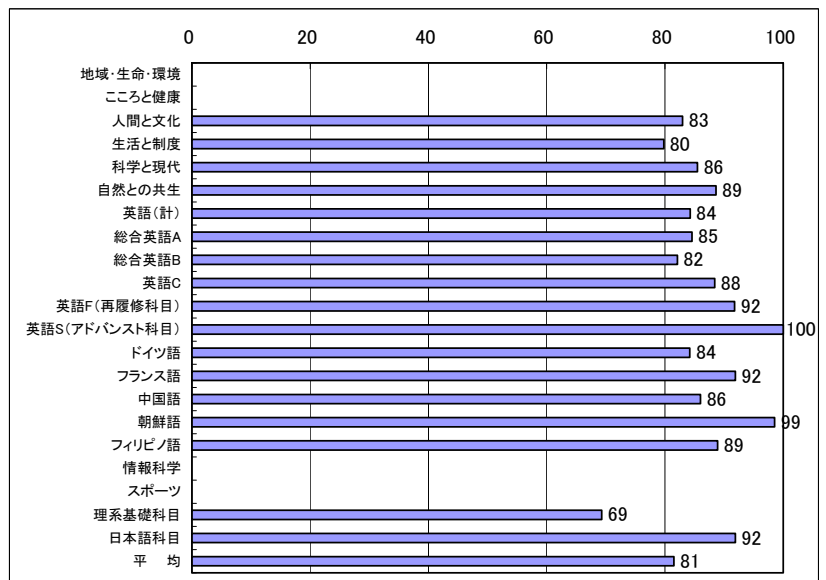


「視聴覚教材」は、学生の理解を促すため、教授手法としてビデオ・コンピュータ機材を効果的に利用していることを確認する指標であり、全科目平均では81%の肯定的評価を得た。科目特性により視聴覚教材の使用の意味に差異があるので、必ずしもこの数値が授業の質を表現するものとはならないが、学生の理解を促す有効な教材であることには間違いないので、積極的に使用すべきであろう。

また、「ドイツ語」は「わかりやすさ」と同様に前後期比の上昇率が高い。この「視聴覚教材」の数値の上昇が「わかりやすさ」の肯定的評価アップに関係している可能性がある。

表8 設問⑧2-4 視聴覚教材  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

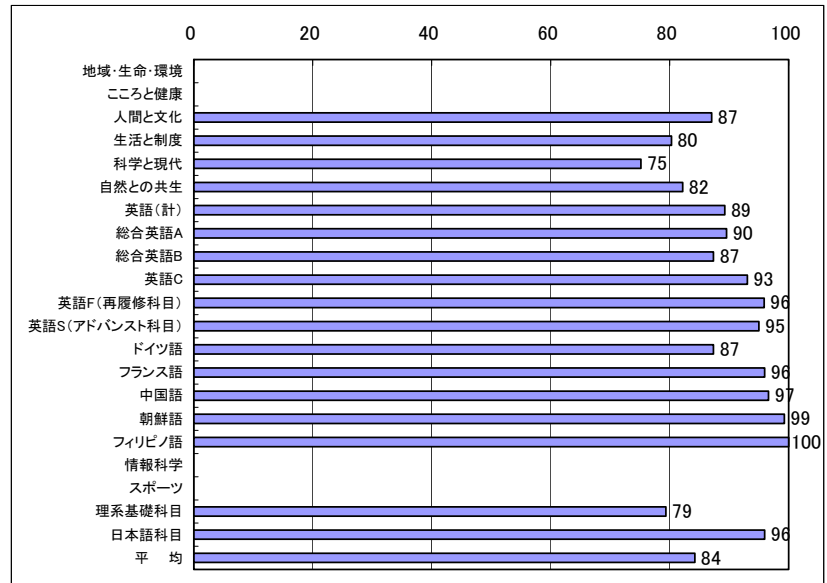
	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	87		82	
ところと健康	80		84	
人間と文化	84	85	82	83
生活と制度	85	74	70	80
科学と現代	79	83	86	86
自然との共生	82	90	89	89
英語(計)	84	88	84	84
総合英語A			86	85
総合英語B			82	82
英語C			86	88
英語F(再履修科目)			87	92
英語S(アドバンスト科目)			96	100
ドイツ語	58	70	60	84
フランス語	77	90	88	92
中国語	70	81	81	86
朝鮮語	91	87	93	99
フィリピン語	50	83	78	89
情報科学	85	100	84	
スポーツ				
理系基礎科目	65	68	67	69
日本語科目	100	89	91	92
平均	77	80	79	81



「教科書・プリント」については、全科目平均の肯定的評価が84%であった。概ね効果的に使用されていると判断できる。「科学と現代」「理系基礎科目」については他の科目と比較すると若干低い数値となっているので、教材について検討する必要がある。

表9 設問⑨2-5 教科書・プリント  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	77		79	
ところと健康	79		84	
人間と文化	86	82	88	87
生活と制度	87	78	77	80
科学と現代	74	78	81	75
自然との共生	77	82	84	82
英語(計)	91	94	90	89
総合英語A			92	90
総合英語B			88	87
英語C			91	93
英語F(再履修科目)			87	96
英語S(アドバンス科目)			100	95
ドイツ語	66	77	70	87
フランス語	78	90	88	96
中国語	87	92	93	97
朝鮮語	96	92	96	99
フィリピン語	88	83	100	100
情報科学	64	100	54	
スポーツ				
理系基礎科目	72	74	74	79
日本語科目	97	96	97	96
平均	79	82	81	84



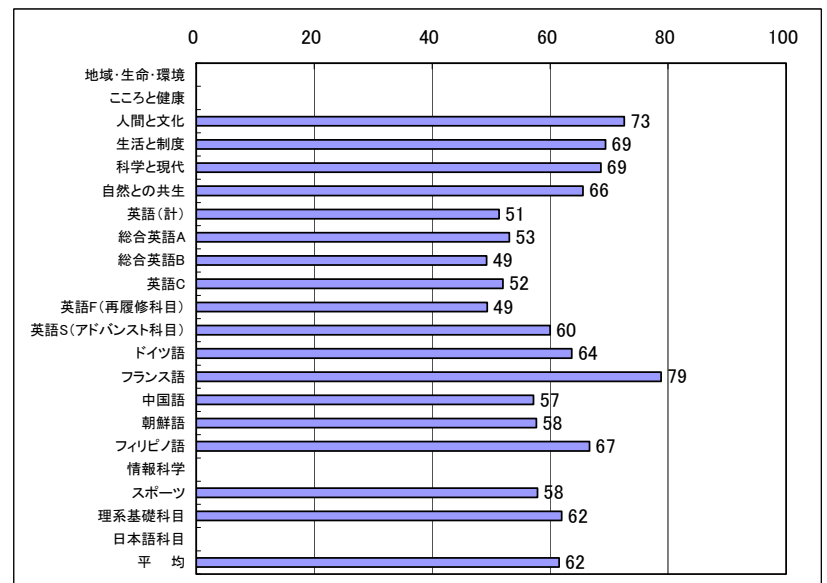
### 3) 「あなた自身に関する質問」に関する学生の自己評価

「シラバス」については、全科目平均の肯定的評価が62%であった。裏返せば、約4割の学生がシラバスをほとんど読まずに授業に参加しているということになる。シラバスを読み学習内容を大まかにつかむことは、学習効果を高めることに繋がる。シラバスの活用方法をガイダンス等で周知したい。

一方、全体的に肯定的評価が低い中、「人間と文化」「フランス語」は、昨年度、今年度を通して肯定的評価が高い。「人間と文化」においては文系の授業であることが関係していると推測されるが、いくつかある語学の中で「フランス語」の評価が高い理由に興味をひかれる。

表10 設問⑩3-1 シラバス  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

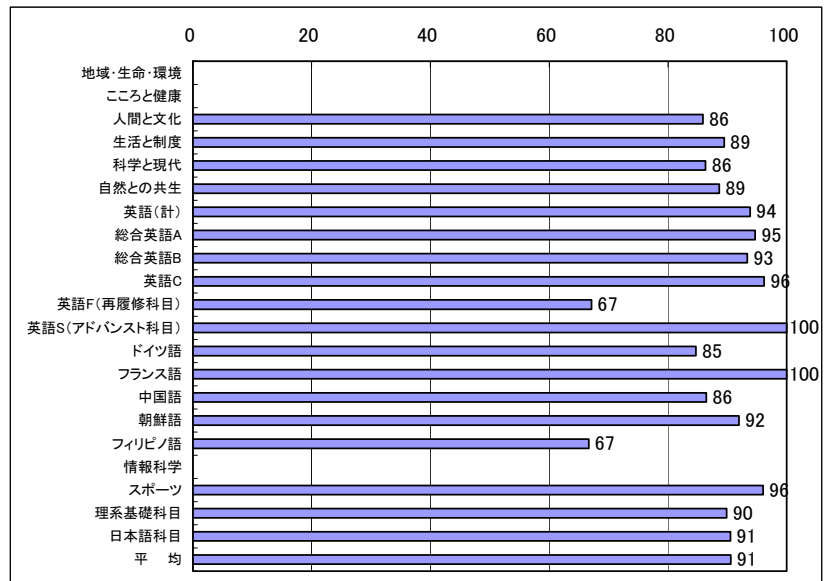
	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	67		67	
ところと健康	68		65	
人間と文化	74	69	74	73
生活と制度	66	68	70	69
科学と現代	67	69	66	69
自然との共生	63	69	67	66
英語(計)	48	48	47	51
総合英語A			46	53
総合英語B			45	49
英語C			53	52
英語F(再履修科目)			49	49
英語S(アドバンス科目)			61	60
ドイツ語	67	74	64	64
フランス語	76	79	77	79
中国語	53	60	54	57
朝鮮語	64	61	60	58
フィリピン語	63	33	67	67
情報科学	46	100	39	
スポーツ	62	61	58	58
理系基礎科目	57	61	54	62
日本語科目				
平均	59	62	57	62



「出席状況」については、『全部出席』または『1-2回欠席』と回答した学生の割合を示した。この割合は、全科目平均で91%に達している。また、科目別の結果を見ても、約半数の科目で90%以上の高い数値となっている。学生の出席状況は概ね良いと言える。単位の認定の前提条件として3分の2以上の出席が求められていることから、これらに対する取り組みの成果と判断できよう。

表11 設問①3-2 出席状況  
(全回答数に対するA、B評価の割合(%))

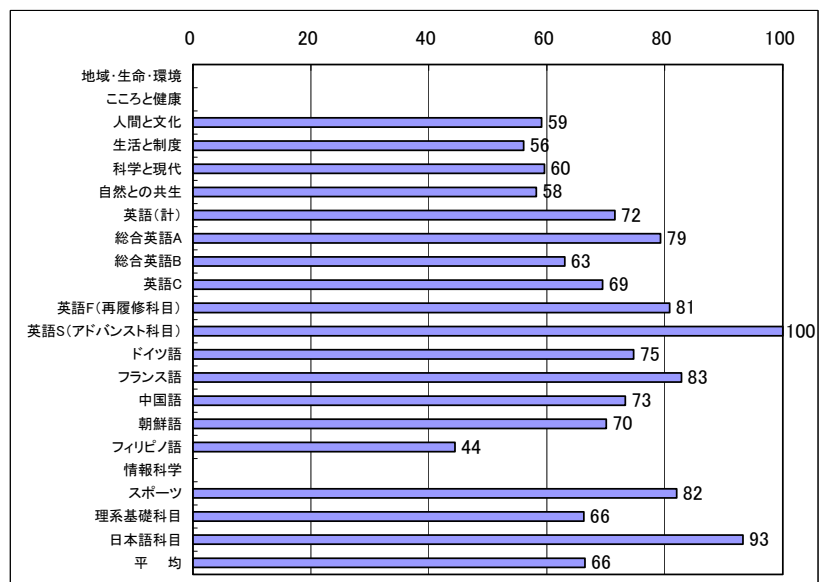
	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	86		90	
ところと健康	87		89	
人間と文化	90	87	84	86
生活と制度	86	88	82	89
科学と現代	89	85	87	86
自然との共生	90	88	89	89
英語(計)	93	94	94	94
総合英語A			96	95
総合英語B			95	93
英語C			91	96
英語F(再履修科目)			74	67
英語S(アドバンスト科目)			90	100
ドイツ語	93	94	92	85
フランス語	96	95	97	100
中国語	90	84	88	86
朝鮮語	90	91	94	92
フィリピン語	100	100	78	67
情報科学	91	100	93	
スポーツ	95	96	94	96
理系基礎科目	91	89	92	90
日本語科目	94	100	90	91
平均	91	90	91	91



「学習態度」については、全科目平均の肯定的評価が66%であった。特に「フィリピン語」で低い数値となっている。「授業に積極的に取り組んだ」と考えている学生が多いとは言えない状況である。学生にのみ原因を求めず、授業の中で学生の動機付けを高めるための工夫をしていくことが重要であろう。

表12 設問②3-3 学習態度  
(全回答数に対するA、B評価の割合(%))

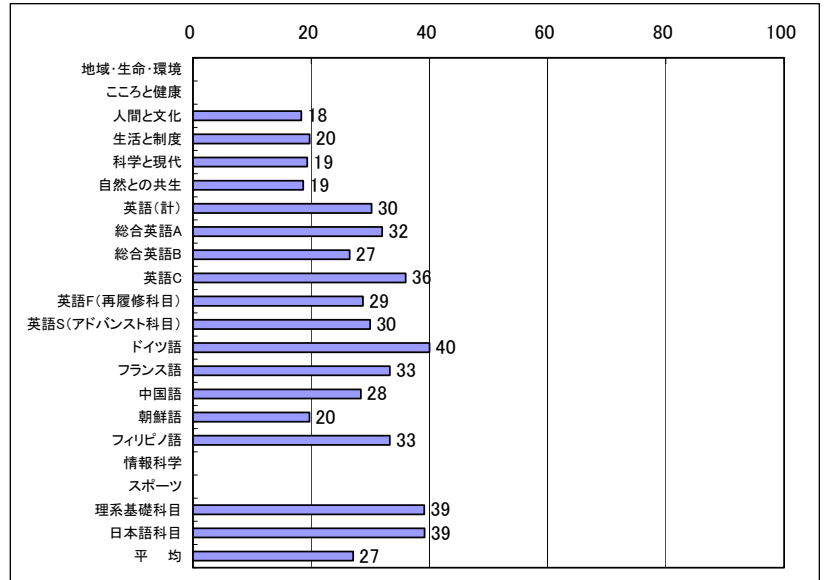
	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	51		55	
ところと健康	43		52	
人間と文化	59	59	56	59
生活と制度	51	49	50	56
科学と現代	52	50	50	60
自然との共生	50	58	65	58
英語(計)	74	77	69	72
総合英語A			75	79
総合英語B			59	63
英語C			74	69
英語F(再履修科目)			74	81
英語S(アドバンスト科目)			92	100
ドイツ語	57	67	60	75
フランス語	71	78	72	83
中国語	58	63	59	73
朝鮮語	61	57	63	70
フィリピン語	63	83	56	44
情報科学	46	50	56	
スポーツ	77	77	80	82
理系基礎科目	59	64	59	66
日本語科目	100	96	98	93
平均	59	63	61	66



「授業時間外学習」については、『2時間以上』または『1時間以上～2時間未満』と回答した学生の割合を示した。当該科目に関して週1時間以上授業時間外学習を行っている学生の割合は、全科目平均で27%であった。現行の単位制度では、1単位は標準45時間（「教員が教室等で授業を行う時間」及び「学生が事前・事後に教室外において準備学習・復習を行う時間」の合計）の学修を要する教育内容をもって構成されている。そのため、授業時間外の学習時間が短いことは問題である。そのような中で、「ドイツ語」では、40%の学生が1時間以上の授業時間外学習を行っている。これらの科目での課題の出し方も参考にして、学生の授業時間外学習を促していくことが必要である。

表13 設問⑬3-4 授業時間外学習  
(全回答数に対するA、B評価の割合(%))

	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	15		18	
こころと健康	14		15	
人間と文化	16	16	18	18
生活と制度	15	14	16	20
科学と現代	15	21	16	19
自然との共生	10	24	22	19
英語(計)	27	30	22	30
総合英語A			17	32
総合英語B			19	27
英語C			34	36
英語F(再履修科目)			28	29
英語S(アドバンスト科目)			27	30
ドイツ語	19	29	37	40
フランス語	38	39	40	33
中国語	23	25	24	28
朝鮮語	19	18	17	20
フィリピン語	0	33	33	33
情報科学	11	0	14	
スポーツ				
理系基礎科目	31	38	34	39
日本語科目	51	53	43	39
平均	21	26	23	27

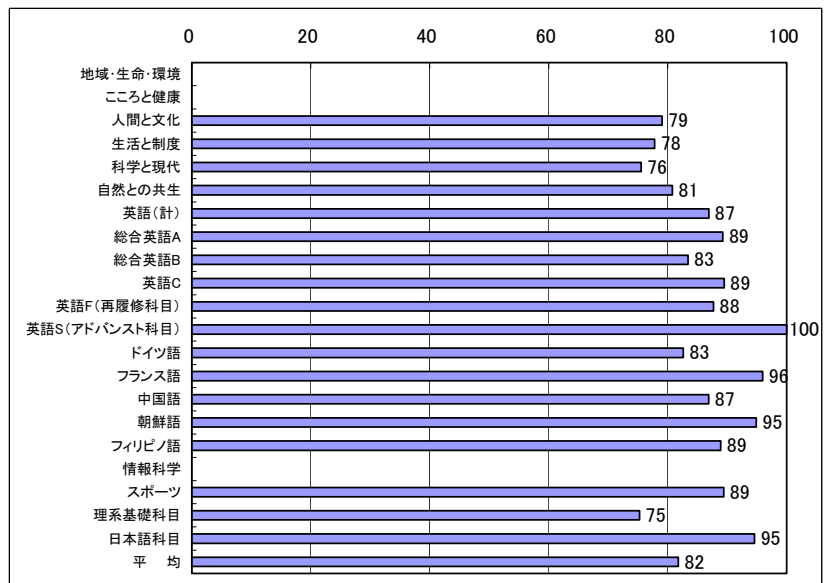


#### 4) 「授業全体に対する質問」に関する学生の評価

「授業改善度」については、学生の意見を取り入れるなどして授業を改善する努力に対し、全体では82%の学生から肯定的評価を得た。ミニッツペーパーや授業中のコミュニケーションによって学生から授業の問題点を引き出し、教員がどのように問題点を認識しているのか、改善に向けてどのような対処を行うのかということ、学生に伝えることが必要であろう。学生にとって当該授業との出会いは一期一会の機会であることからすると、改善への意欲が彼ら・彼女らに伝わるよう工夫することは、教員としての責務であろう。

表14 設問⑭4-1 改善度  
(全回答数に対するA、B評価の割合(%))

	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	73		74	
こころと健康	65		75	
人間と文化	84	80	79	79
生活と制度	79	74	69	78
科学と現代	68	72	75	76
自然との共生	72	78	82	81
英語(計)	84	88	85	87
総合英語A			90	89
総合英語B			79	83
英語C			86	89
英語F(再履修科目)			91	88
英語S(アドバンスト科目)			94	100
ドイツ語	61	84	64	83
フランス語	78	91	85	96
中国語	69	83	75	87
朝鮮語	85	87	91	95
フィリピン語	88	100	78	89
情報科学	57	100	57	
スポーツ	85	87	88	89
理系基礎科目	69	71	69	75
日本語科目	86	89	86	95
平均	73	79	76	82



「目的・目標達成度」では、授業の目的・目標が達成されたかどうかを質問している。全科目平均で87%の肯定的評価を得た。科目別の結果では、フィリピン語を除く全ての科目で80%を上回っている。特に「フランス語」「朝鮮語」「スポーツ」「日本語科目」は高い評価を得ている。

授業全体としての「満足度」については、全科目平均で84%の肯定的評価を得た。前学期数値の低かった「ドイツ語」も89%の高い肯定的評価を得ている。

共通教育のありかたを論じる場合に、いたずらに学生の反応に振り回されてはいけないが、授業は受け手に受容されない限り、効果を期待することはできない。目的・目標達成度や満足度の向上の為に、カリキュラムの面からも問題がないか、絶え間なく検証する必要がある。

表15 設問⑩4-2 目的・目標達成度  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	83		82	
ところと健康	75		80	
人間と文化	86	83	87	83
生活と制度	89	79	78	85
科学と現代	77	77	82	81
自然との共生	75	86	89	87
英語(計)	86	90	87	89
総合英語A			92	93
総合英語B			80	84
英語C			89	92
英語F(再履修科目)			90	96
英語S(アドバンスト科目)			98	100
ドイツ語	71	87	72	91
フランス語	83	95	90	97
中国語	81	89	85	91
朝鮮語	87	85	93	95
フィリピン語	88	100	100	78
情報科学	77	100	70	
スポーツ	95	93	93	96
理系基礎科目	75	78	76	82
日本語科目	100	100	98	100
平均	81	84	82	87

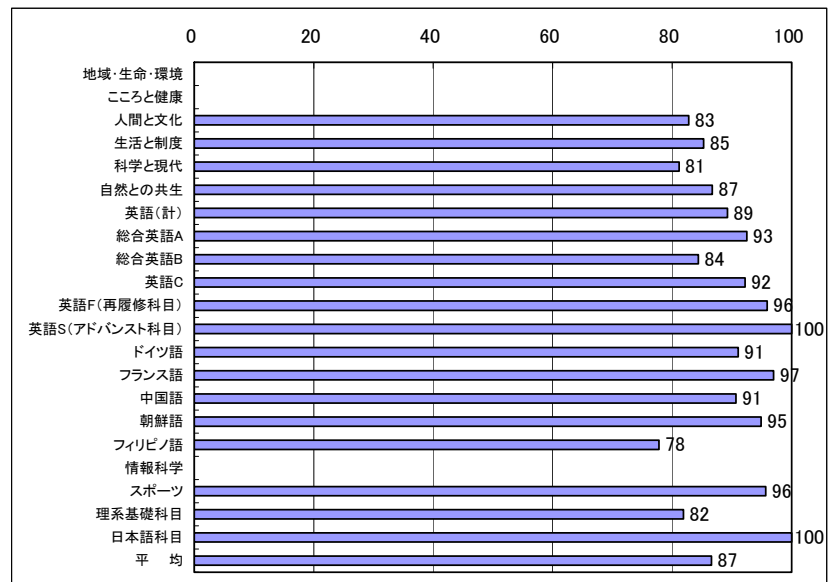


表16 設問⑩4-3 満足度  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成18年度		平成19年度	
	前	後	前	後
地域・生命・環境	81		79	
ところと健康	73		80	
人間と文化	83	81	84	81
生活と制度	88	76	74	82
科学と現代	76	73	81	80
自然との共生	72	83	88	84
英語(計)	86	90	87	88
総合英語A			92	91
総合英語B			79	83
英語C			89	93
英語F(再履修科目)			88	93
英語S(アドバンスト科目)			98	100
ドイツ語	68	84	68	89
フランス語	84	95	85	99
中国語	81	89	87	92
朝鮮語	89	83	96	96
フィリピン語	88	83	100	78
情報科学	73	100	66	
スポーツ	94	93	93	94
理系基礎科目	70	73	71	76
日本語科目	89	100	98	99
平均	79	81	80	84

